

教育研究所だより

No.222号 令和3年1月29日(金) 【発行者】守山市教育研究所 所長 西川 典子
守山市勝部三丁目9番1号(守山市生涯学習・教育支援センター 愛称:エルセンター 3・4階)
TEL:077-583-4217 FAX:077-583-4237
E-mail:kyoikukenkyl@city.moriyama.lg.jp
HP:http://www.city.moriyama.lg.jp/kyoikukenkyl_index.html

赤ちゃん和妈妈と地域をつなぐコミュニティ情報誌『MAMA PASSPORT』

一般社団法人ママサポートコミュニティ 代表理事 廣瀬 香織

「コミュニティビジネス」とは、地域が抱える課題を地域資源を活かしながら、ビジネス的な手法によって解決しようとする事業であり、私が代表を務める『ママサポート』事業では地域のママが抱える課題を地域の女性(ママ・主婦)が能力や経験を活かしながら、行政との協働事業や企業からの広告・協賛によって解決する、いわば「子育てママのためのコミュニティビジネス」を行っています。

この事業をするきっかけは、自分が子育てしていく中で「ママという目線や経験を活かせる仕事をつくりたい」という思いが芽生えたことでした。子どもと遊べる場所や子どもと一緒にいけるお店やママにうれしいサービス情報など「この地域にしかないオリジナルの子育て情報誌を作りたい」とこだわって作りあげました。

情報誌の取材や撮影を通じて、地域のことやたくさんのお店を知ることがとても楽しかったのですが、それ以上に嬉しかったのが、自分が暮らす地域の中でたくさんの人とのつながりができたことです。もともとは兵庫県出身で結婚を機に守山市に転入してきたので、両親はもちろん、知り合いもほとんどおらず、これから先の暮らしを考えると、ふと不安に思うこともありましたが、地域子育て情報誌を作らせてもらえるようになってから、私にとって心地いい居場所、新しい故郷を見つけたような気がして、仕事も子育てもずっと前向きに続けてこられました。

地域の子育て情報誌を作るようになって約15年目、現在は市町ごとに「ママサポート」を軸としたコミュニティビジネスモデルを生み出し、各地域で子育てするママたちにとって心地よい居場所ができることを願っています。

近年、現代社会の情勢の変化や市民ニーズの多様化により、注目されはじめたのが「地域力(ちいきりよく)」です。子育て支援をはじめ、福祉や教育、防災、防犯など多様な分野で行政の力だけでなく、市民や企業をはじめとする地域の構成員が、自らその問題の所在を認識し、自律的かつ、その他の主体との協働を図りながら地域問題を解決する力です。今こそ、持続可能な地域社会を築くために一人一人がひとりの人間としての自己実現を考えていかなければなりません。そのためには、地域における男女共同参画の推進も不可欠だと言われています。様々な学びや経験を通じて、地域力を高め地域としての価値を創造していきましょう。

第3回初任者研修

令和2年11月6日（金）、第3回守山市初任者研修を実施しました。

午前、物部小学校 泉 幸佑 教諭による国語科の授業動画を視聴し、授業研究会を行いました。グループ協議では、「本時の目標に迫る授業実践であったか」という視点で、成果と課題、改善策をグループで話し合い、それぞれの考えを深めることができました。

また、学校教育課 吉田 尚子 指導主事からは、「授業展開のポイント」等について指導助言をいただき、授業に臨む姿勢や振る舞いについて、改めて考える機会をいただきました。

午後は、保育園・幼稚園・こども園所属の初任者も参加し、お二人の講師の先生からご講話をいただきました。

守山野洲少年センター 福井 善隆 所長からは、『あすくる守山野洲』における活動や支援について、学校教育課 山中 満男 指導主事からは、「守山市の生徒指導の現状と子どもへの関わり」についてお話をいただきました。

園、小、中の連携の大切さ、子どもの行動の背景を見取り、個を尊重する関わり大切さについて学ぶことができました。

【午前の研修の様子】



授業動画の視聴



授業者より



質疑応答



グループ協議



各グループの発表



指導助言

今年度の研究より

指導力向上に関する研究 1

「互いの考えや気持ちを

進んで伝え合おうとする力の育成」

～単元のゴールにつながる“Small Talk”の工夫～

令和3年1月15日（金）、本研究における最後の研究協力員会を実施し、今年度の取組における成果と課題について協議を行いました。

“Small Talk”を授業の中で位置づけ、積み重ねていくことにより、児童が自信を持って自分の思いを英語で表現できるようになったこと、「単元のゴールで行う活動」や「本時のSmall Talkのめあて」を明確にし、児童に分かりやすく提示してきたことで、児童が見通しを持って、意欲的に表現を身に付けられるようになったこと等、成果として挙げられました。

今年度は、「Google Classroom」を活用したオンラインによる授業研究を行い、研究協力員の先生方が、“Small Talk”の内容等を協働して検討し合えたことは、小中連携の新たな取組として効果的なものとなりました。



担当者：係長 中道 裕恵

指導力向上に関する研究 2

「教育相談の視点を生かした学級活動のあり方と実践展開」

—対話的關係を重視し、人と人がつながる

居心地のよい学級をめざして—

令和3年1月21日（木）、第6回研究協力員会を開催しました。今年度の研究のまとめとして、居心地のよい学級にするための取組や、研究全体を通しての成果と課題について協議しました。

今年度の取組を実践することで、友だちの気持ちを考えて行動できる子どもが増えたことや、アンケートを通して、学級の居心地のよさを数値化したことで、児童生徒の実態を把握し、指導に活かすことができたことも成果として挙げられました。



担当者：研究員 天沼 翔太